

# 地域の皆様も道徳授業地区 公開講座にお越しください

道徳教育は、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標に、学校の教育活動全体を通じて行われています。中でも、特別の教科として位置付けられた道徳科の授業は、その中核的な役割を担っており、小学校では今年度から実施され、検定教科書を使用した学習が始まっています。中学校では来年度から開始となります。

学校では道徳教育を主体となって進めていますが、より一層の充実を図るためには、子どもたちの道徳性を養う上での共通理解を図るなど、家庭や地域社会との連携が大切になってきます。

そこで、学校では道徳授業地区公開講座を開催し、道徳科（道徳の時間）の授業参観、意見交換会等を通じて、道徳教育の充実に向けて、家庭や地域の皆様と一緒に考える場を設けています。保護者の皆様だけでなく、地域の方々にも学校に足を運んでいただき、奥多摩町の子どもたちの様子を知り、学校と共に、子どもたちの道徳性を育む道徳教育を進めていきたいと考えています。

- ◇古里小学校 平成30年 10月13日(土)
- ◇氷川小学校 平成31年 2月 9日(土)
- (◇奥多摩中学校 平成30年 6月2日(土) ※終了)



第213号  
発行  
奥多摩町教育委員会

平成30年9月1日現在  
児童数 145名  
生徒数 77名  
教職員数 48名

## 奥多摩町の特別支援教育

### 特別支援学級（固定学級での指導）

特別支援学級は、通常の学級における学習では、十分にその効果を上げることが難しい児童・生徒のために編制される学級です。学習上又は生活上の困難の克服・改善を目的とした指導領域の「自立活動」を取り入れたり、各教科の目標・内容を下学年の教科の目標・内容に替えたり、特別支援学校の各教科に替えたりするなど、児童・生徒の実情に合った教育課程を編成して授業を行います。現在、奥多摩町には、古里小学校に2つの学級（知的・情緒）が設置されています。



たんぼぼ学級



ひまわり学級

### 特別支援教室（通級による指導）

在籍学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童・生徒に対して、各教科等の指導は在籍学級で行いながら、個の実態に即した課題に対して指導するのが、通級による指導です。小学校では「あおぞら教室」、中学校では「特別支援教室」と呼んでいます。古里小学校の「あおぞら教室」では、拠点校の氷川小学校の担当教員が巡回指導を行っています。



古里小あおぞら教室



氷川小あおぞら教室



奥多摩中特別支援教室

特別支援学級、特別支援教室に関するご相談等がありましたら、所属する学校までお気軽にご相談ください。未就学児童につきましては、教育相談室までご連絡ください。

〈連絡先〉奥多摩町教育相談室 83-2340

# 古里小学校の特色ある教育活動

昨年度は、人権尊重推進校として、「分かった」「できた」という達成感を味わうことのできる授業づくりに励むことで、自尊感情や自己肯定感を高める実践を行ってきました。

今年度は「心ときめく」学校生活や授業づくりに、教職員全員で取り組んでいます。

## 分かる喜び、学ぶ楽しさ

- \* 授業のユニバーサルデザイン化。  
児童にとって分かりやすい授業を追求します。  
→焦点化(めあて、授業構造)、視覚化、共有化。
- \* 校舎全部を児童の教育活動に活用します。  
→教室の美化、美しい掲示を心がけます。  
長期休業中の一斉校内整理整頓の実施。
- \* 日常的にICTや視聴覚機器を活用。  
→教科書をモニターに提示等の工夫をします。
- \* 全校音読の取組で国語力の向上を目指します。  
→音読集会の実施。発声指導の共通理解。

## 考える力

- \* 児童の関心・意欲を高める指導。  
→学習意欲を高める掲示の工夫をしています。  
→プログラミングを利用した学習等。
- \* 主体的・対話的で深い学びを推進します。  
→ノート指導の取組。(国語・算数・理科他)  
→授業での話し合い活動を重視しています。  
→司書と協力し、図書室を活用しています。



## 心はずむ仲間との時間・体力向上

- \* 木曜日の「ロング遊び」は、毎回様々な集団で遊びます。(縦割り・仲良し・学級等)
- \* 児童会活動(集会)で、高学年が活躍します。
- \* 地域の大自然に触れる山登り遠足を行います。  
→5、6年大岳山 4年水干 1~3年日の出山
- \* 児童も教職員も全力で行事に取り組みます。  
→運動会 学芸会 連合音楽会(5、6年)
- \* 縦割り班活動・登校班活動の充実

## つながる力 多彩な体験学習

- \* 郷土学習「古里(ふるさと)」の実施。  
→自然・文化・生活体験・栽培活動。  
→わさびや治助芋の栽培体験。
- \* 様々な方々とともに。  
→田植え・稲刈り・餅つき(青梅総合高校、PTA)  
→日本文化体験(奥多摩文化団体連盟およびコミュニティ・スクールの協力で計画)



## 一人ひとりに合った学びの場

- \* 古里小学校には児童の実態に合わせて特別な支援を行う学級があります。今年度、「ひまわり」が再開しました。  
特別支援学級「たんぼぼ」 知的固定(校舎1階)  
特別支援学級「ひまわり」 情緒固定(校舎3階)  
特別支援教室「あおぞら」 巡回指導(校舎2階)
- \* 古里小学校では、特別支援学級の児童が通常学級の授業に参加しています。また、学習支援員による教室支援や、補充指導の工夫を行っています。(インクルーシブ教育)
- \* SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)と連携して、教育相談の充実を図っています。

# 氷川小学校の特色ある教育活動

氷川小学校は、氷川地区、日原地区、小河内地区を含める広大な学区を有します。奥多摩町の約8割の面積を占める本校の学区は、山林、川、湖、ダム、たくさんの動植物等、奥多摩の自然の宝庫と言える学校なのです。「環境は人を作る！」とよく言われます。この「環境」という視点から、氷川小学校が取り組んでいる今年度の特色ある教育活動をご紹介します。

## 言語環境・・・「ALT (外国語指導助手) 常勤」「放課後英語教室」

奥多摩町は今年度、英語の言語環境を整えるために2つのことを導入しました。「ALTの常駐」と「放課後英語教室開催」です。ALTのティガンさんは、授業の時だけ派遣されるのではなく、教員と同じように毎日朝から夕方まで本校に勤務しています。主は、1～6年生の外国語授業の担当です。子どもたちは、正しい発音に触れる貴重な機会を設けることができました。ティガンさんは、授業だけでなく、給食・掃除・休み時間等にも積極的に子どもたちに関わっているので、生活の中で英語に触れることができる「英語の日常化」につながっています。また、6月から開始した「放課後英語教室」ですが、希望性にも関わらず、子どもたちの参加が多数にのぼり、英語好きの子どもを育てる良い機会になればと期待しています。



## 教室環境・・・広々とした教室で充実した教育！



もっとも人数の多い学年は、5年生の13人です。子どもたちの机や椅子を並べても、教室の後ろ半分くらいのスペースに余裕があります。授業展開次第では、そのスペースを有効に使用することができ、各担任が工夫を凝らしています。掲示スペースにも余裕があり、様々な教科の様々な作品を工夫して掲示することが可能です。「視写・新聞・詩や俳句、書写」等の国語だけでなく、図工や家庭科の作品を飾るにも十分な広さです。一人ひとりの作品が大事にされることにより、きめ細やかな教育を実現できる諸条件が揃っています。

## 運動環境・・・よく遊び良く学べ！

今年度の全校児童数は、61人でスタートしました。人数に比べると十分な広さの校庭や体育館があり、この環境を活かす取り組みを重視しています。子どもたちは、休み時間や放課後に、野球、サッカー、バドミントン、ドッジボール、ドッジビー、鬼ごっこ等、様々な遊びで過ごしています。本校は、同じ学年の友達だけでなく、学年を超えて仲良く遊んでいます。また、教員も進んで外に出て、子どもたちと一緒に遊んでいます。力いっぱい汗をかいて遊ぶことで、心も体もすっきりします。「よく学び・よく遊べ」を意識し、子どもも教員も「遊ぶときは遊ぶ」「学ぶときは学ぶ」と、けじめをつけながら過ごしています。

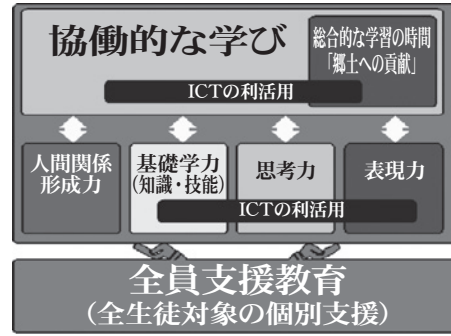


## 人材環境・・・教育は人なり

本校は、「確かな学力の定着」「きめ細やかな指導」というキーワードを意識しながら、日々児童の指導に取り組んでいます。教育に関わるスタッフが、協力・連携し、実践して初めて教育効果を得られることができます。担任、専科教員の工夫した授業に加え、特別支援教室でのきめ細やかな指導、さらには、教育支援員、スクールサポートスタッフ、スクールカウンセラー、図書支援員、ALTによる手厚い個別支援もあり、子どもたちを多方面から育成する環境にあります。この1年、「全教職員で、全校児童を育てる」と意を共にし、児童の健全育成に取り組んでいます。

奥多摩中学校  
特色ある教育活動

奥多摩中学びの構造図



**学校教育目標**  
郷土を大切に、21世紀をたくましく生きる生徒の育成を目指して  
**《校訓》 「協働」**  
共に学び、考え、実行する

《学校経営方針》こんな学校に  
学校は、そこに  
関わる人間（通う  
生徒、あずける保  
護者、働く教職員、  
見守る（地域や行  
政）すべてに幸せ  
を育むものでなく  
てはならないと考  
え、学校運営を行  
います。また、今  
年度より小学校を  
含めたコミュニ  
ティースクールと  
して地域とともに  
学校づくりを行  
います。

① 生徒のために

「行きたい学校」をつくる。  
学習指導は、「おもしろい」で刺激し、  
【二人で考える時間】と【共に考える  
時間】を組み合わせて、「わかる、で  
きる」を経験させる。生活指導は、  
問題となる行動に対する「きびしさ規  
律」とその背景にある生徒の想いに  
対する「やさしさ（共感）」の適切な  
バランスで実践する。体験学習は、  
心を育て、心に夢の種を宿す。良質  
な体験学習（プロジェクトアドベン  
チャー、農業体験、職場体験、実業  
体験等）の場を多く提供する。

生徒の「自分の成長を実感できた  
喜び」が「行きたい学校」へと結び  
ついていきます。

② 保護者・地域のために

「行かせたい学校」を  
地域とともにつくる。

「生徒の楽しそうに学校へ通う姿  
が見えた。」「生徒の何かに真剣に取り  
組む姿」が見えた。」「生徒の成長を  
実感できた喜び」を味わうことができた。  
こんなとき、保護者や地域の皆様に  
ちよつとした幸福感を味あわせてあ  
げることができると。

そのことが「行かせたい学校」へ  
と結びついていきます。

③ 教職員のために

「働きがいのある学校」をつくる。  
「二手間掛けた仕事をしよう（質）」  
「プラスαの仕事をしよう（量）」

「締め切りより早く完成させよう  
（時間）」  
「常にチームの一員であることを意  
識しよう（関係）」

という姿勢で仕事を進めます。やら  
されているという感覚や、できない  
理由を考えることに時間を使うのを  
やめ、どうやったらできるかを考え  
ることに時間を使い、働きがいのあ  
る学校へと結びつけていきます。

【全員支援教育】について

全員支援教育とは、本校のすべて  
の教育活動を支えるもので、特別支  
援教育の考え方や手法で、全生徒を  
対象に、支援を行うというものです。

特別支援教育校内委員会では、課  
題や、困り感をもつすべての生徒を  
対象に、具体的な支援の仕方を協議し、  
全教職員に周知して、迅速に支援を  
行っています。

【協働的な学び】について

「協働的な学び」とは、  
・ある課題に対して、生徒自身が動  
機を持つて主体的に取り組む。  
・観察、分析・批判（評価）によつ  
て課題を解決するために必要な問  
題点を見い出す。  
・創造的な発想を生かして、その課  
題の解決に必要な各種の問題点を  
克服する。

このことよって、課題を解決し  
ていく学習と定義します。

この「協働的な学び」を、教科だ  
けでなく、道徳や特別活動、総合的

な学習の時間などでも広く実践し、  
さらに深めていくために、「人間関係  
形成力」「基礎的な学力」「思考力」「表  
現力」の4つの力を育てていきます。

【総合的な学習の時間】について

「総合的な学習の時間」は、「協働  
的な学び」の重要な要素のひとつと  
捉えています。とくに、カリキュラ  
ムベースの学びではなく、プロジェ  
クトベースの学びとして、取り組め  
ることが重要で、アクティブラーニ  
ング（主体的・対話的で深い学び）  
の中でも、いわゆる「深い学び」へ  
と深化させていくために必要な学  
びの場となります。

本校では、「郷土への貢献」をテー  
マに、調査・探求から実践までを、  
3年間で行えるように取り組み、課  
題を設定し、解決策を考え、実践す  
る学びが、教師側が設定した目標を  
越えて進んでいき「深い学び」へと  
つながると考えています。

【ICTの利活用】について

i Padを核としてICT機器を、  
協働的な学びの中で学習のための  
ツールとして効果的に使用します。  
そこには、ICT機器は、子どもたち  
の学びの道具であってほしいという  
願いが込められています。また、「協  
働的な学び」を円滑に、さらに深め  
ていくために、必要な4つの力のう  
ち人間関係形成力を除く3つの力を  
育てていく場面でも活用していき  
ます。

### 図書館より新しい本のご紹介

#### 一般書

- 犬棒日記 乃南 アサ 著 双葉社
- あやかし草紙 宮部 みゆき 著 KADOKAWA
- 砂の家 堂場 瞬一 著 KADOKAWA
- 三千円の使いかた 原田 ひ香 著 中央公論社
- 爽年 石田 衣良 著 集英社
- 吉祥寺デイズ 山田 詠美 著 小学館
- 白い戦場 柴田 よしき 著 光文社
- にゃん！鈴江藩江戸屋敷見聞帳 あさのあつこ 著 白泉社
- カットバック 警視庁FC2 今野 敏 著 毎日新聞出版
- オヤジの着こなしルール 本江 浩二 著 世界文化社

#### 児童書

- しんこうきょうだいのにちようびもとやすけいじ 作・絵 絵本塾出版
- おっちゃん山 椎名 誠 作 新日本出版社
- あのねあのね えがしらみちこ 作 あかね書房
- ねるじかん 鈴木のりたけ 作 早川書房
- おうち 中川 ひろたか 作 こぐま社
- つくえはつくえ 五味 太郎 作 偕成社
- ぼく、おたまじゃくし？ 田島 征三 作 講談社
- はりねずみのおいし屋さん ふくざわゆみこ 作 世界文化社
- ホイホイとフムフム マージョリー・ワイマン・シャーマット 文 ほるぷ出版
- 体育館の日曜日 ベットショップへいくまえに 村上 しいこ 作 講談社

### 教育相談室 相談員として

原島 富子

18年前、私は奥多摩町古里地区主任児童委員として、保育園・小学校・中学校と関わるようになりました。運動会や公開授業等の行事、PTA地域懇談会に出席し、園児・児童生徒の様子や保護者の方々の思いを多少なりとも知ることが出来ているのではないかと思います。又、町の子育て支援事業にも参加し、奥多摩町の子どもたちの健やかな成長を願い、活動して参りました。毎年、保育園の入園式に出席させていただき、園児の純真な心にふれた時、「この子達のために何が出来るだろうか」「保護者の皆様にとのように入り添って活動したらいいのだろうか」と思うことがあります。小学生・中学生の姿を見たときもその思いは同じです。子育ての悩みは多様です。でも、それと同じくらいの楽しさや感動があると思います。ちよつと困ったなーと思つたときは、どうか一人で抱え込まないでください。一緒に考えましょう！相談室の専門職スクールソーシャルワーカーと共に、奥多摩町の子どもたちの健やかな育ちを支えるため、保護者の方々の支援も含め、お手伝いできればと思っています。宜しくお願い致します。

### 奥多摩町教育相談

#### 【場所】

〒198-0212 奥多摩町氷川199番地 奥多摩町福祉会館2階

#### 【開室日】

毎週月・火・木・金曜日  
午前9時～午後4時まで

※（事前予約が必要です。）

水曜日・土曜日・日曜日・休日・祝日・年末年始はお休みです。

#### 【相談内容】

- ・学校に行けない、登校渋り、友達と上手く遊べない、困った癖がある、学校生活や日常生活でのお子さんへの心配事について
- ・言葉の理解や発達が遅い様に感じる、勉強に意欲が出ない、学力面について、お子さんの発達に関するご相談
- ・町外の相談機関、医療機関のご紹介
- ・町の福祉手当やサービスの紹介など

【電話】(83)12340



# 郷土奥多摩(文化財)

## 奥多摩町の巨樹

### 「イヌグス」について

(その2)

文化財保護審議会委員 梶谷 義明

#### ・「小丹波のイヌグス」

古里駅から200m、線路の北側原島家の屋敷林の中にそびえています。樹高25m、幹周4.6m、推定年齢は不詳ですが、南斜面の生育環境の良い場所です、こんもりとした樹形は勢いを感じさせます。

訪れた日は庭師さんが、下草を刈ったり周りの植木の手入れをされていて、家主さんに大事に管理され、ここまで大きく育つたと思われれます。

#### ・「梅沢のイヌグス」

川井駅から十分程、梅沢集落の中ほどの宝寿庵の裏手の山裾に、周りの木よりひときわ大きく見えます。樹高25m、幹周4.6m、推定年齢300年と言われています。

今回紹介する3本の巨樹の中で、最も樹勢が良いように感じました。根元の板根が発達し、そこからひこばえ(萌芽)が何本も生育しています。また、南に張り出した太い枝は10m以上も伸びて、地上に届く程垂れ下がっています。標識に、かつて梅沢の3ヶ所に記念植樹されたが現存はこの樹のみとなったと記されていますが、周囲には樹齢10年以上のイヌグスが何本もあり、巨樹の下にも発

芽したばかりの幼木が確認できます。そのうち、このあたりがイヌグスの群生地になるかも知れません。



この原稿を書くに当たり、タブノキが群生した照葉樹林を見たくて、鎌倉に行ってきました。長谷寺や御霊神社には御神木の太木があります。が、鎌倉の民家や神社と、いたるところにタブノキがありました。特に明月院、建長寺から瑞泉寺に至る裏山の鎌倉外輪山は、タブノキが照葉樹林を形成して、訪ねた春先は新芽のオレンジ色に近い黄色が鎌倉の輪郭を彩っていました。

ところで、タブノキの北限は東北の三陸海岸あたりのようですが、先の東日本大震災の時、防潮林のマツが津波で流失し、後背地の被害を払

大する事例が生じましたが、耐塩性の高いタブノキは残ったそうです。そこで、震災後の海岸防災林の再生活動には、タブノキやツバキの照葉樹が提案され、教育活動の一環として、照葉樹の種の採取・育苗を市民

や子供たちが行う活動が開始されているそうです。今回の執筆でイヌグスという樹が急に好きになりました。皆様も健康増進のためにも、奥多摩の巨樹めぐりをお勧めします。



御霊神社のイヌグス



長谷寺のイヌグス